□ふれあいとうるおいのあるまち

地域情報紙　Vol.30　No.112　新春号

はばたき20

□発行　地域力推進羽田地区委員会　　□編集　はばたき20編集委員会

夢と希望と…　世界にはばたく　東京羽田ヴィッキーズ本橋選手

今回は、東京2020オリンピックの女子バスケットボール日本代表で、見事日本バスケットボール競技史上初の銀メダル獲得に貢献し、大田区民栄誉賞を受賞された、地元「東京羽田ヴィッキーズ」の本橋菜子（もとはし　なこ）選手にインタビューをさせていただきました。

埼玉県朝霞市出身　1993年10月10日生まれ
2009年4月　明星学園高校入学
2012年4月　早稲田大学入学
2016年4月　東京羽田ヴィッキーズ入団

Q：バスケットボール選手になろうと思ったきっかけは何ですか？

A：元々、大学でバスケットは辞めるつもりでした。しかし、大学4年生の時に怪我をしたこと。また、東京羽田ヴィッキーズから声をかけていただいたことをきっかけにバスケットボール選手になることを決めました。

Q：東京羽田ヴィッキーズに入団を決めた理由は何ですか？

A：地域密着型のクラブチームで、バスケットだけでなく地域に根付いた活動をできるのが魅力だと思い、入団を決めました。

Q：オリンピックに出場して印象に残ったことは何ですか？

A：ボランティアスタッフの方々が各会場や色々なところで常に笑顔で温かく迎え入れていただいていたことがとても印象に残っています。改めてたくさんの方々のサポートによってこのオリンピックは開催することができたのだと感謝しています。

Q：銀メダルを獲得できた一番の要因は何だと思いますか？

A：色々な事が積み重なってこの結果が残せたと思うので、1番を決める事は難しいですが、金メダルを取ることをヘッドコーチも選手も信じてやってきたことが今回の結果に繋がったと思います。

Q：銀メダルを獲得して一番良かったことは何ですか？

A：自分以上に周囲の方々が喜んでくれた事がすごく嬉しかったです。ここまで来るのに自分1人では絶対に乗り越えることができなかったので、ここまで支えてくださった方々にこのような形で感謝の気持ちを伝えることができて良かったと思います。

Q：予選リーグから勝ち続けていく中で、チームの選手の意識が変わっていくことはありましたか？

A：試合を重ねる毎に選手たちもこれまでやってきたことが間違いじゃなかったという自信が段々と強くなり、一体感も試合を重ねるごとに強くなってきたと思います。

Q：所属チームが異なる皆さんが、日本代表として団結していくためには、どのような点が大事だと感じましたか？

A：日本代表という一つのチームで自分が何をすべきかということや自分の役割を自分自身でしっかり理解する必要がありますし、仲間のそのような部分も理解することが大事だと思います。

Q：無観客での試合になってしまいましたが、選手にとって観客の声援の中でプレイするのと比べてどのような心境の変化がありましたか？

A：やはり観客の皆様の声援はプレイしていてすごく背中を押してもらえますし、時に流れが大きく変わってくることもあります。それがなかったのはすごく残念な部分ではありますが、良い意味でオリンピックという緊張やプレッシャーをあまり感じずに普段通り大会に臨むことができたのではと思います。

Q：今後、バスケットボールを通じてどのような活動をしていく予定ですか？（社会貢献など）

A：今回のオリンピックを通してバスケットボールに注目が集まっていると思いますので、まずは10月から開催されるWリーグにて所属するチームで、少しでもバスケットに興味を持っていただいた方に会場やネットを通してバスケットの魅力をもっともっと伝えていけたら良いなと思います。

（東京羽田ヴィッキーズ　本橋菜子　選手）

羽田地区町会連合会会長就任のご挨拶

羽田西町町会 神山 忠行 会長

令和3年3月の羽田地区町会連合会町会長会議に於いて、本会会長に選任され日々職務の重さを痛感しております。

今後、皆様の期待に応えるべく粉骨砕身努力して行きたいと考えていますので、町会（区）会の皆様のご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

世界各国でコロナ禍が蔓延しています。皆様もまずは感染しない、感染させないよう心掛け、気を付けてください。各町会の行事、会合等も中止の状況だと思いますが、一日も早く、コロナ禍が終息することを願っています。

さて、私も羽田生まれの羽田っ子です。昭和53年まで羽田六丁目（羽田仲東町会）に住んでいましたが、同年現在の羽田二丁目（羽田西町町会）に移り新居を構えました。他町会の私を西町の皆さんが温かく迎えてくれたのを今でも思い浮かべます。いずれは西町の為に何か手伝わなくてはと思っていましたが何とか役に立てて良かったと思っているところです。西町町会には良き先輩方がいて色々教えを受け大変勉強になりました。今日有るのも諸先輩方のおかげだと感謝しています。

羽田地区には懸案の課題がいくつかあります。

航空機騒音について、昭和49年に羽田空港移転対策協議会が発足、52年協議会が始まり羽田地区の先輩会長方が長年にわたり、訴え、解決に向けた協議を重ね、北風時A滑走路北向き離陸左旋回の全廃など成果をあげました。今般、新飛行経路の運用が開始され、特にB滑走路使用による騒音影響が懸念されます。

羽田空港跡地第一ゾーンについて、令和2年、羽田イノベーションシティが先行開業しました。この場所は昭和二十年に当時の三町「鈴木町・穴守町・江戸見町」の住民が　48時間の強制立ち退きを命ぜられた悲しい歴史が残っている場所ですので、行政と、羽田地区町会連合会との話で、立派な新しいまちが完成した事に、当時の住民の方達も理解していただけるのではないかと思います。そして2023年にグランドオープンする予定です。楽しみにしていただければと思います。

来訪者で賑う羽田イノベーションシティ

イノベーションシティ隣地の公園整備について、現在大田区内でも有数の広さとなる都市計画公園の整備計画が進められています。多くの皆さんが利用しやすい公園となるよう、また、羽田地区の発展や伝統文化の継承、地域活性化にもつながるよう地元羽田地区としても引き続き行政と意見交換していきたいと思います。

安心・安全な災害に強いまちづくりについて、自然の力による大災害はいつどこで起こるか分かりません。いざ、災害が起きた時のためにも、地域の避難所に係る課題や、高齢者の避難支援対策など、地域防災の一層の強化に向けて、行政と連携・協力しながら取り組んでいきます。

子供達のいじめ問題について、昔は喧嘩してお互い仲よくなりましたが、子供達でもスマホを持つ時代になり、SNSによるいじめなど、最近新聞、テレビで報道される様々な課題について、子供達のこれからの人生に大きな心の影響となって残ってしまう様なことはあってはならないことです。区の教育委員会等とも連携しながら食い止めなくてはいけない課題だと思います。

こうした課題解決に向け、各町会のご協力を頂きながら取り組み、羽田地区の住民の皆さんが「安心して暮らせる町」「住んで良かったと誇れる町」を目指していきたいと考えています。

終わりに羽田地区の町会長・役員をはじめ、地域の皆様の益々のご発展とご多幸を祈念し就任の挨拶といたします。

（羽田地区町会連合会
会長　神山 忠行）

☆　編集後記　☆

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナ禍により活動を自粛しましたが、一年振りに「はばたき20」を発行致しました。

羽田地区に於けるイベントや行動が制限され、旅行や帰省もままならない生活が続きました。しかし、本年度は社会の情勢を見ながら少しずつでもはばたきの活動を考えていきます。

これからも「はばたき20」の愛読、投稿をよろしくお願い申し上げます。

はばたき20編集委員長　笈川善次